

「草木奇品家雅見」「草木錦葉集」の斑入り植物を展示

横井政人

伝統園芸植物の一つとして、江戸時代から愛培されている斑入り植物約70種を展示した。期間は6月の5～6期と8月の9～10期であった。

斑入り植物は江戸伝統文化を受け継ぎ、新たな園芸文化を保存、将来に継承する代表的な植物であろう。ここでは177年前の江戸時代、文政10年（1827）発行の「草木奇品家雅見」や、文政12年（1829）発行の「草木錦葉集」に図解、記載されていて、疑いなく現在でも見られる草木の種類を選んだ。材料は筆者栽培の種類を、山口安久氏のすばらしい高級鉢に植え替え、同氏らの栽培技術で約半年間にわたり肥培。展示期間中、見違えるほどすばらくなって展示できた。

若干、展示植物の解説をしたい。図1のコウヤマキ斑入りは現在でも珍重されるが、当時の解説に「なるせこうやまき」は佐橋成世候栽培の品。殊に愛樹なればここに顕すとある。現在みられる品種と同じと思う。もう一図（図2）のウチワサボテン「高橋さぼてん」は、現代品の「初日の出」と同じと認められる。展示会場ではすばらしく生長し、驚きの的になった。メキシコ原産の植物であるが、当時既に輸入されていたことは明らかである。また熱帯原産のハイビスカス（ブッソウゲ）斑入りも当時あり、「斑入すさう花、近來花の変り所々より数種出る。駒込うつみやしき長左工衛門出はひとえにて斑まわりよく見事なり」とあった。会場では真っ赤な花が連日咲き、驚かされた。

現在珍しい斑入り種にはマテバシイ、ホオズキ、オカメザサ、ツルドクダミなどがある。

今回の出品展示にあたって、株式会社樹芸 山口安久氏、また同社の皆様に絶大なるご支援、さらに展示期間中の株式会社グリーンダイナミックス 松井美子さんの長期間のご助力なしでは絶対に成功できなかった。ここに心からの感謝のことばを述べたい。また安行の佐藤植物園ならびに樹の里からは良品の出品を賜り感謝したい。



図1 コウヤマキ



図2 ウチワサボテン

斑入り植物の展示